

法医学試験問題例題(その2)

- A. 死体現象について分類し、各々について簡潔に説明せよ（9点）。
- B. 下記の文章中の（ ）内に 最適な 語句を記せ（計16点）。
1. 通常、切創の創縁は整であり、創洞内には血管や神経などの、いわゆる（ ）はない。また（ ）と平行に走る創口を持つ切創は、垂直方向に走る創口を有するものよりも創口が開く程度は小さい。
 3. 刺創の創口は（ ）ともよばれ、貫通する刺創では（ ）も認められる。また、円形の創口を呈する刺創では、常に（ ）との鑑別が必要である。
 4. 割創は鋭器損傷に分類されるが、創縁に（ ）を認めることが、他の鋭器損傷との鑑別上の要点である。
 5. 鋭器損傷の際の死因として多いのは、（ ）、（ ）などであり、その他、頻度は下がるが、（ ）や（ ）などもみられる。
 6. 鈍器損傷は、一般的に外力が加わった部位に生じるが、例外的に（ ）は外力の作用部位から離れたところでも生じる。
 7. 挫創と刺創を鑑別するには、挫創では創縁に（ ）が認められることに着目する。
 8. 銃器損傷では通常の創洞に相当するものを（ ）という。また、近射と遠射を比べると（ ）の方が、弾丸の入っていく部位の形状が小さく、整っていることが多い。

9. ある期間継続的に行われた身体的虐待の発見には、児童の身体に新旧の
（ ）があるか否か、注意することが重要である。
10. 火災現場から発見された死体の頭蓋腔内に血液の塊を認めた場合は、
外傷性血腫と（ ）を鑑別する必要がある。
- C. 機械的窒息をもたらす機序について手段別に分類し、各々について
簡潔に説明せよ（7点）。
- D. 下記の法医学用語を説明せよ（各2点；計32点）。
1. 仮死
 2. 逡巡創
 3. 二重条痕
 4. 伸展創
 5. Messerer の骨折
 6. contre coup injury
 7. 間稜出血
 8. 扼痕
 9. 壊機法
 10. 墮胎
 11. 成熟徴候
 12. ブラック・アイ（眼鏡様出血）
 13. 突然死
 14. ヘルシンキ宣言（1964年）
 15. 医籍
 16. 応召義務
- E. 医療事故、またはそれが疑われる事態が生じた時に、医師がとるべき
適切な態度や、具体的な対処などを述べよ（6点）。